

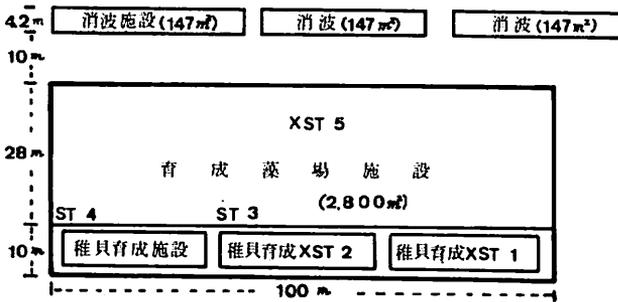
# 幼稚仔保育場におけるアワビ稚貝放流効果について

竹内 四郎・森脇 晋平・勢村 均

はしがき 本県におけるアワビ幼稚仔保育場は、51年度に多伎地区に設置されて以来、52年布施、53年御津、54年多古、55年中村と毎年1ヶ所の割合で継続され、その間、アワビ稚貝の放流も年々実施されて来ており、稚貝の育成も、場所の差こそあれ、大体順調に推移している様である。この中で多伎、御津、多古について、55年度に行なった調査結果について述べる。

## 調査方法及び経過

### 多伎地区



図一 多伎幼稚仔保育場概要図

表一 坪刈り調査結果

Station		St ①	St ②	St ③	St ④	St ⑤
海 藻 類	オオバモク	1,380 g	550 g	g	g	g
	ヤツマタモク		65			330
	トゲモク		5	570	570	
	アカモク			7	2	
	クロメ	550				450
	マクサ	5		2		
	アミジグサ			20		10
貝 類	バテイラ	2ヶ	1ヶ	1ヶ	2ヶ	4ヶ
	チグサガイ	2	12			1
	コシダカカンガラ		6	1	1	1
	フデガイ		2			
	イガイ		1			
	ウノアシ		1			
サザエ						1

アワビは多数着生しており、特に20~25ミリの放流直後のものが多く、40ヶの中標識したものの26ヶ、成長は2ミリ位見られた。また50年頃に放流した29ミリのものが137ミリで再捕された。

調査は55年11月18日、伝馬船で現地に行き、舟上よりの箱眼鏡による「ノゾキ」とアクアリング潜水による観察並びに50cm枠の坪刈りによって実施した。発見したアワビについては、舟上で測定後再放流し、一部は取揚げて飼育中である。

St ①は育成場の岸寄りで、水深1~1.5m、オオバモク、クロメ、アマモの着生が多く、5×5m内にサザエ50ヶ位見られる。アワビは9ヶ採捕されたが、大きさは30~80ミリで、放流貝と確認されたものが3ヶあった。またヒトデが少々多かった。St ②は岸寄り中央付近で、水深は1.5m内外、オオバモク、ヤツマタモク、アマモ、アミジグサ等が着生し、サザエは5×5m内に20~30ヶみられ、

St③は水深が1.5m内外で、ヤツマタモク、アカモク、オオバモク、ノコギリモクが被度100%で着生し、60、80、80、120、70(2.5)、73(2.6)の大きさのアワビが採捕された。またヒトデがみられた。

St④は育成場西側岸寄りで水深が1.5m内外、ヤツマタモク、イソモク、アマモ、クロメの幼生がみられた。アワビは145(28)ミリのものが採捕された。

St⑤は育成藻場で水深2.5m、オオバモク、ヤツマタモク、アミジグサ等が着生し、アワビは、67(28)ミリのものが採捕された。

アワビの棲息状況は、多い所で $m^2$ 当り10ヶ、少ない所でも1ヶ位見られたが、海藻の着生がかなり多いので発見しにくいことを考えると、かなり残存しているものと推察される。

餌料の着生は $m^2$ 当り2,288~7,740gと余り多くはないが、11月の着生としては普通である。推定成長度(年間成長)は19.2~26ミリで、室内飼育に比べ少々速い様に思われる。

表-2 アワビ測定表

( )内は放流後の推定年数

殻長	放流時の大きさ	成長度	重量
145ミリ	28ミリ	117(5.0)	300g
80 "	32 "	48(2.5)	60 "
80 "	28 "	52(2.5)	70 "
137 "	29 "	108(5.0)	290 "
65 "	29 "	36(1.5)	25 "
67 "	28 "	39(1.5)	30 "
76 "	25 "	51(2.5)	60 "
73 "	26 "	47(2.5)	55 "
75 "	天 然	-	60 "
120 "	"	"	245 "